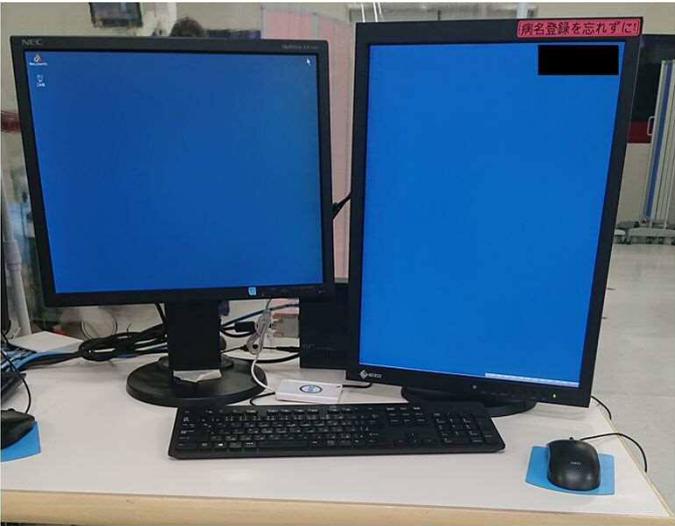


⑥ 救急ERシステム

操作端末



ERシステム サーバー



【ステータス画面】



【入力画面】





事業概要
&
NEXT Stage ER 2.0 説明資料

急性期医療データの分断を
解消するITシステムの提供を通じて

医療現場を書類業務から解放

データに基づいた意思決定を
当たり前にする

- 社名 : TXP Medical 株式会社
- 設立 : 2017年8月
- 資本金 : 26,000,000 円
- 従業員数 : 約18名
- 代表取締役 : 園生智弘 (救急集中治療医)
- 事業概要 : 急性期データシステム(NEXT Stage ERシリーズ)の開発と提供
医療AI技術の開発と提供
医療関連データプラットフォーム事業
臨床研究支援事業
- 取引実績 : 複数大規模病院
三井物産株式会社
株式会社NOBORI
- 提携企業/大学 : 三井物産株式会社
株式会社NOBORI
国際航業株式会社
大阪大学(眼科・救命センター)・東京大学(次世代病理)
北海道大学(集中治療科)・東北大学(高度救命センター)
宮崎大学(地域医療・総合診療)・山口大学(工学部)



NEXT Stage ER提供

- ハイボリューム救命センターでの業務効率化と、学術研究に活用可能なレジストリ構築の同時実現が可能なERデータプラットフォーム
- 音声入力ドクターカーアプリ、待合室問診、トリアージ、PACS画像転送、救急隊情報連携、など、救急外来で必要な機能をすべて1箇所に集積

NEXT Stage ER 2.0 (クラウド版) 提供

- 二次救急指定病院向けのクラウド版NEXT Stage ER
- 音声コマンド入力、PACS画像情報の院外・転院先への転送、紹介状の自動作成などの業務効率化機能を搭載
- 地域全体の救急医療連携の基盤となるアプリケーション



医療AIモジュール、音声入力技術の提供

- 医療に特化したテキスト解析技術をフル活用した各種業務支援機能をライセンス提供
- ハンズフリー音声入力、紹介状自動作成、放射線・病理レポートの見逃し防止など多彩な技術応用

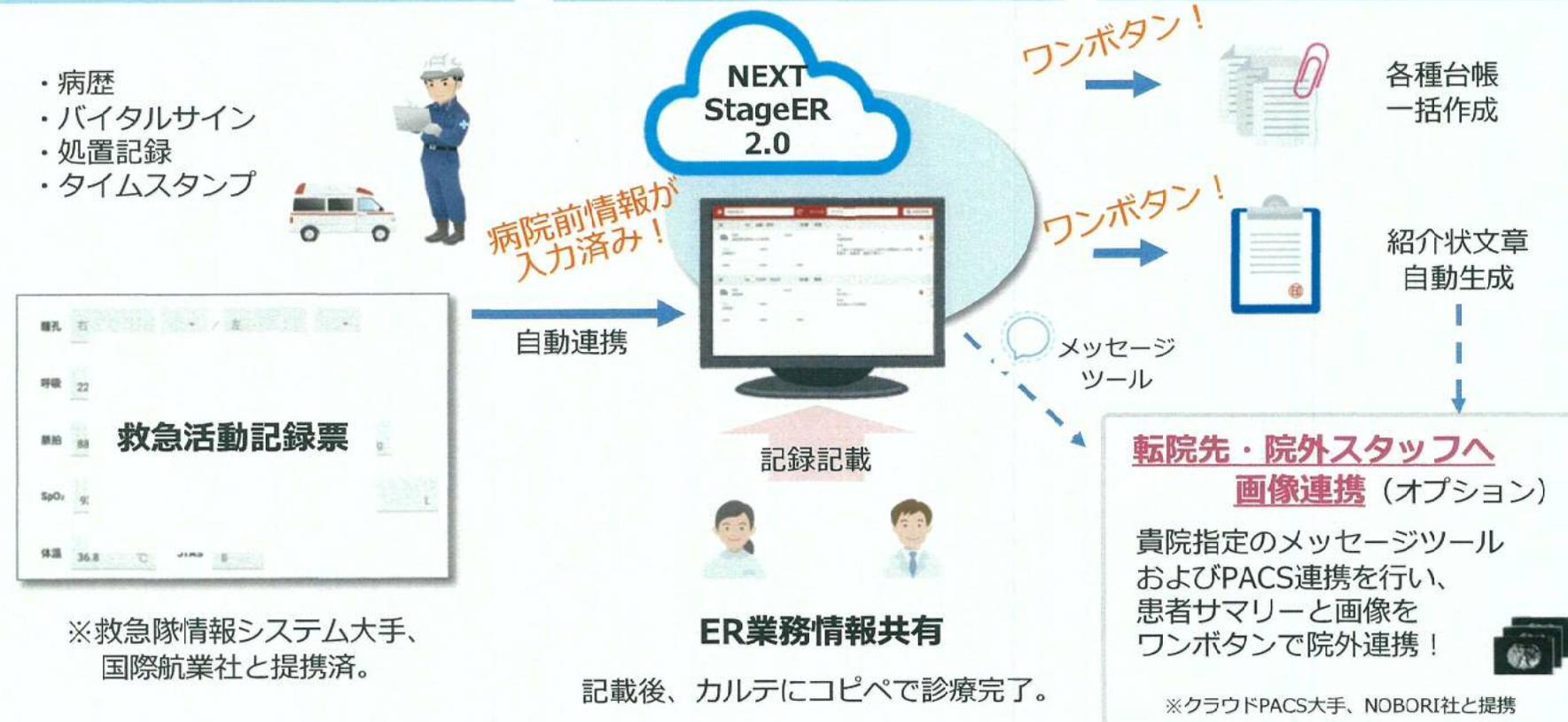
医療データ・研究支援事業

- 電子カルテからデータを取得可能な研究支援システムの構築により、研究者をexcel作業から解放
- 将来的に多施設医療データの二次利用・流通基盤を構築していく



システム全体図

《業務イメージ》



※救急隊情報システム大手、
国際航業社と提携済。

I. 2020年度診療報酬改定 ～救急医療分野の傾向をおさらい～

次世代ERプラットフォーム「NEXT Stage ER 2.0」

① 救急医療関連加算の強化 → 今後の急性期病院では救急医療強化は必須

新設「地域医療体制管理確保加算」に注目！

《施設基準》

- ・救急搬送台数2,000件(年間)以上
- ・病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制

(診療報酬増額例)

- ・救急台数2,000台
- ・入院人数5,000人

年間2,600万円増収！

(入院人数5,000人×5,200円)

業務改善・働き方改革の原資に！

520点 (入院初日に限る)

② 医師の働き方改革に対応するための
タスクシフトの評価。

医師・看護師の業務は50~60%が書類作成業務。
業務整理をせずに補助者を増員したら
大幅コストUPに。
まず書類関連業務のオペレーション再設計を。

③ 報酬算定の根拠となる記載条件の厳格化。
重症度など客観的指標の導入。

救急医療管理加算、特定集中治療室管理料3・4、
看護必要度Ⅱ等、**重症度のカルテ記載情報が増加**
する傾向。

II. 救急医療強化を目指す病院の経営と臨床をサポートします。

NEXT Stage ER 2.0は、救急医療における救急車受入の活性化、
診療情報入力業務を効率化し、書類業務時間を大幅削減します。

病院前情報を
救急隊情報システムと
直接連携
* with 国際航業 *

病院前情報を含めた
台帳作成の一本化
レセプト摘要欄の情報出力

セキュリティガイドライン
に準拠した
堅牢なクラウドサーバー運用

PACS画像情報の院外・
高次医療機関連携
紹介状の自動作成機能

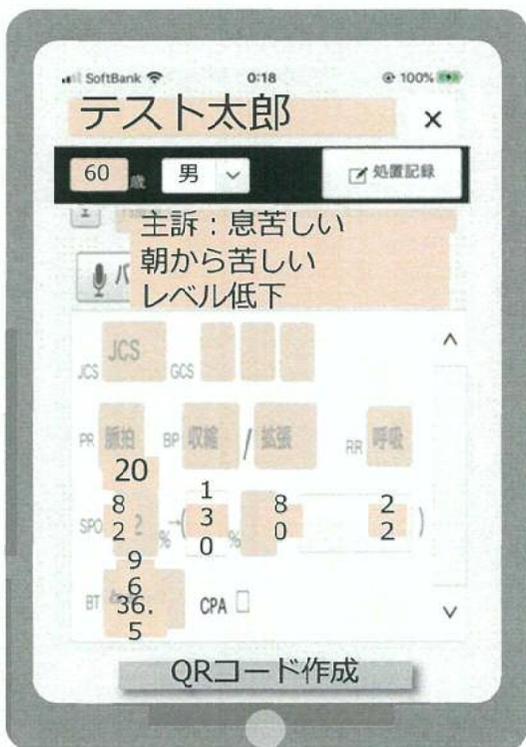
音声コマンド入力

◎病院前情報、救急隊情報システムとの連携

現場情報入力作業

病院との連携

救急隊アプリ



救急隊情報の
カルテ記載効率化
(2重入力の回避)

救急搬送先マッチング

転帰・予後情報を
行政・MCへ自動返送

NEXT Stage ER 2.0
導入病院



音声入力等入力支援機能により
現場での情報入力効率UP！

◎救急関連台帳の一元作成

- ▼NSER2.0から自動集計し
エクセルに即出力!
- ▼書類作成のための手書きメモやカルテ見返し作業を削減!



◎診療報酬算定上の重症度指標を一括出力

- ▼2020年救急医療管理加算の算定要件に
重症度に係る指標の入院時の測定結果について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること
が追加

イ 意識障害又は昏睡	JCS もしくはGCS
ウ 呼吸不全又は心不全で重篤な状態	SPO2と酸素投与量
オ ショック	血圧と原因疾患

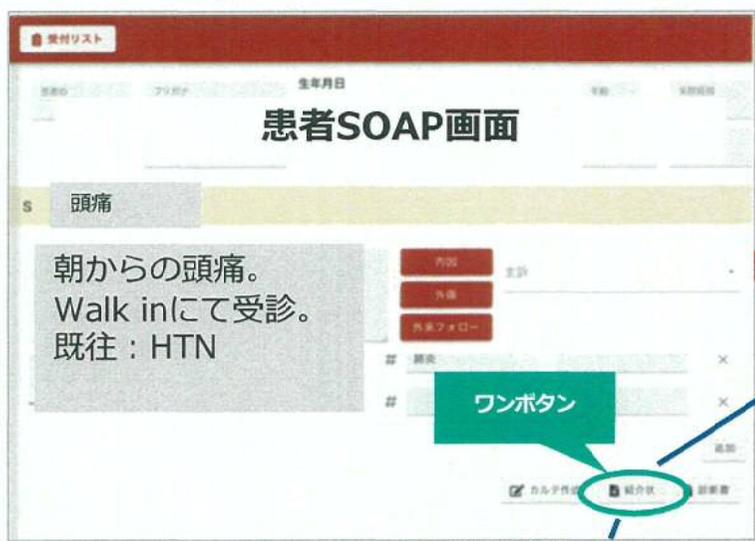


- ▼診療報酬明細書の摘要欄に記載すべき情報を自動出力可能
事務員の検索や転記の手間を削減。

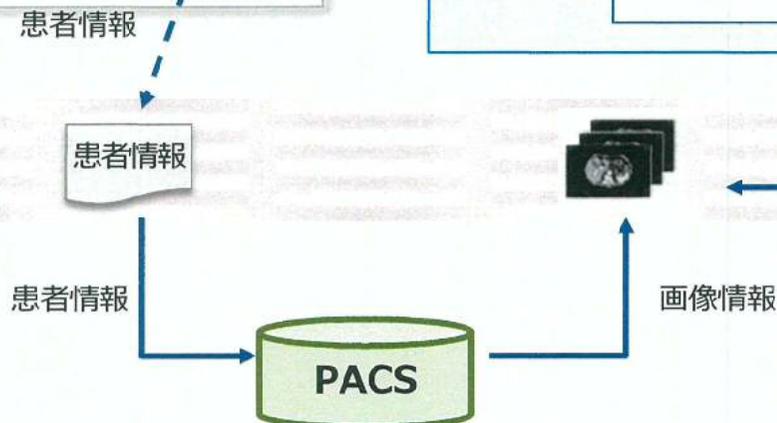
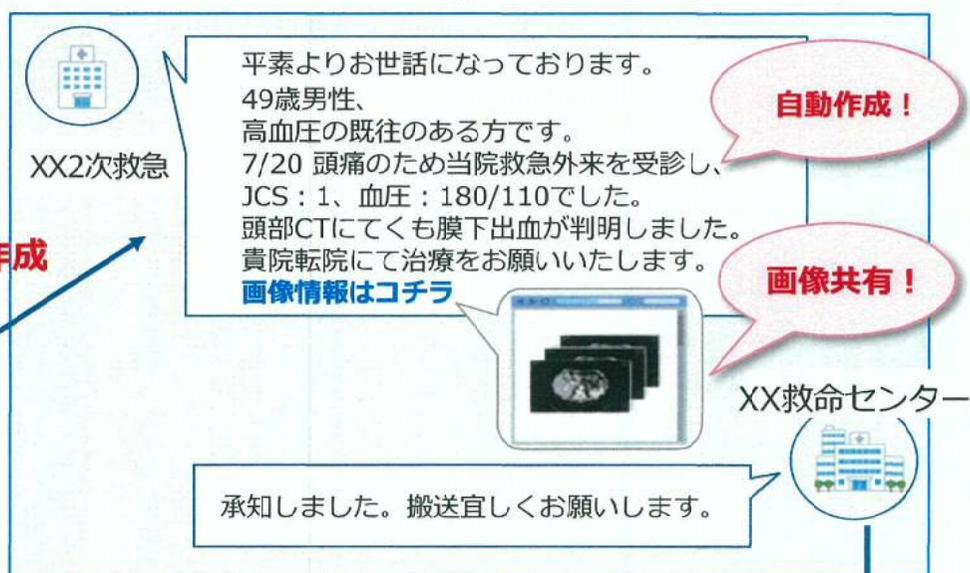
◎PACS画像連携 & 紹介状自動生成

▼PACS画像情報及び診療情報を、NSER2.0からワンクリックで搬送先病院や院外医師へ連携が可能

NEXT Stage ER 2.0



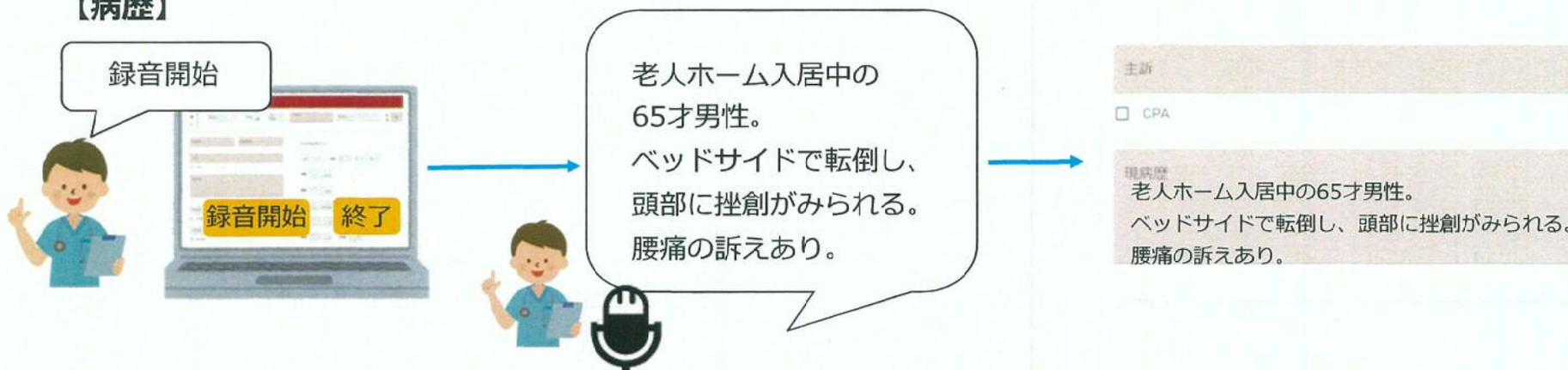
コミュニケーションツール(Microsoft Teams等)



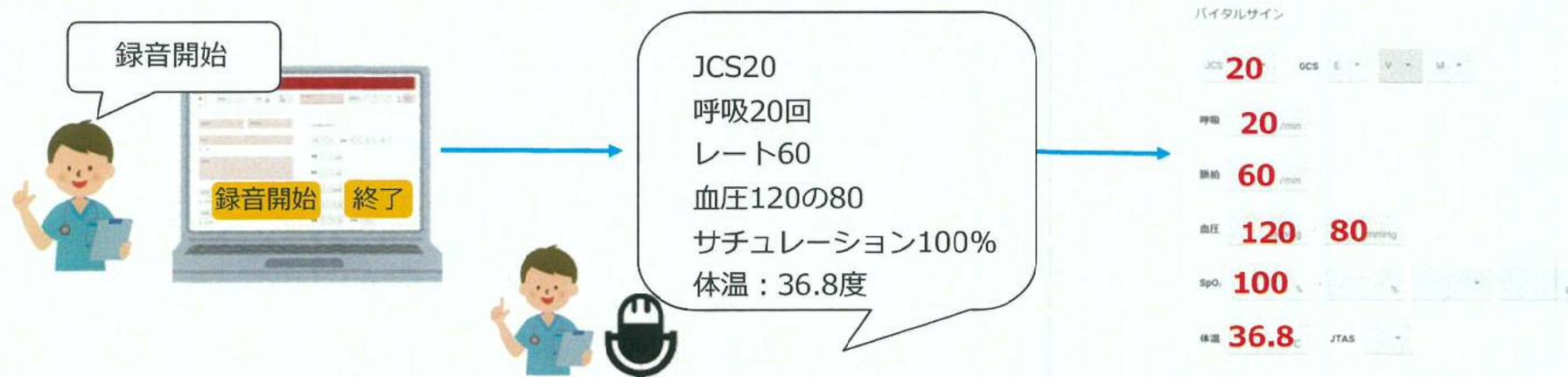
◎音声コマンド入力

▼救急車の電話受けなど、音声での情報入力が可能です。

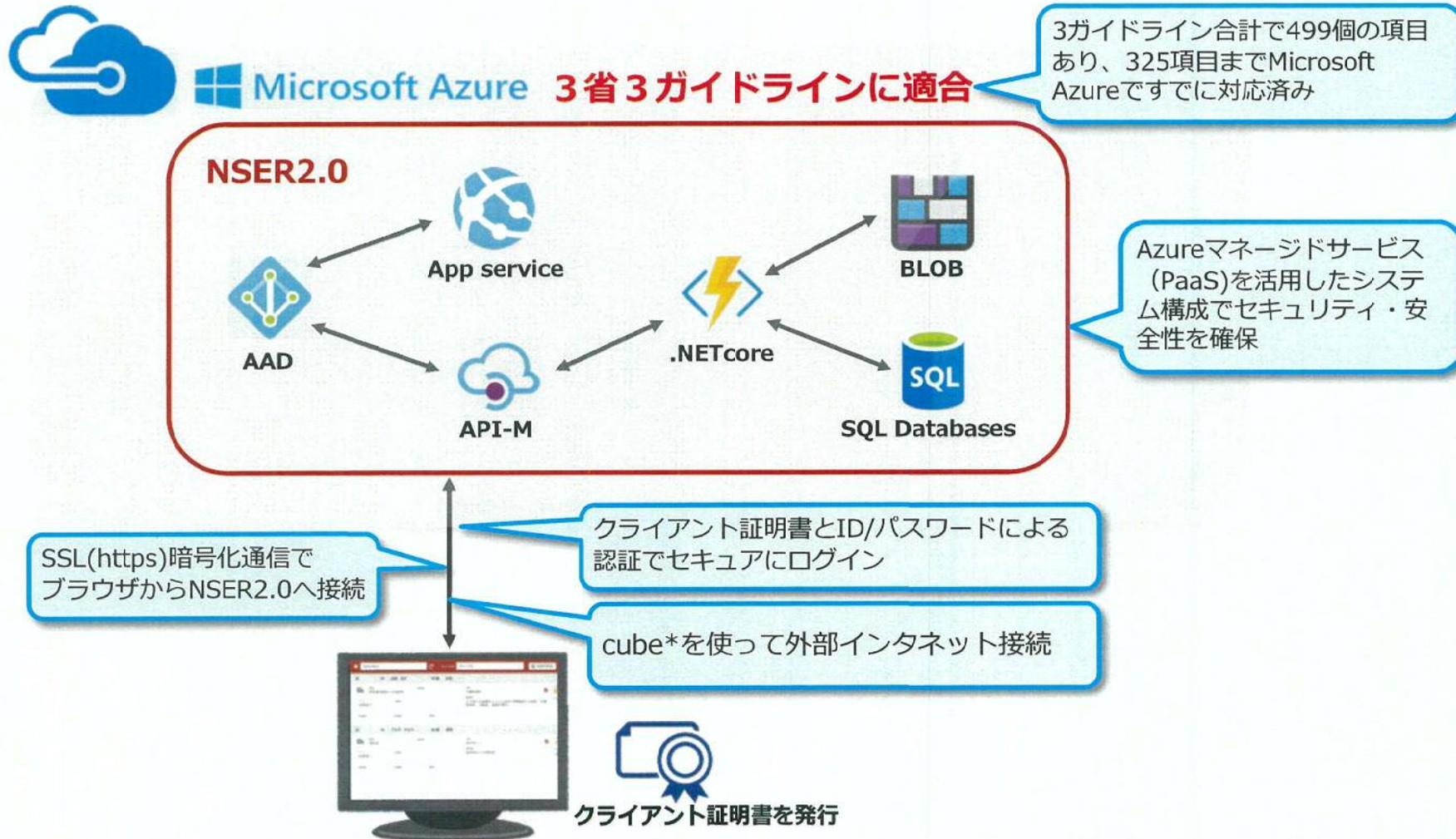
【病歴】



【バイタルサイン】



◎セキュリティガイドラインに準拠した安全なクラウド運用



*cubeはNOBORI社が構築する電子端末から外部接続できる環境を整えるシステムです。
cubeを採用することでセキュリティを保ちながら院内情報のクラウド化や画像連携を実現します。

TXP社作業

貴院作業

◎導入までの流れ

お申込

申込書に必要事項を記入しお申し込みください

アカウント・クライアント証明書発行

弊社よりアカウント情報、
クライアント証明書を発行しご連絡いたします。

外部接続環境整備

電カル端末から外部接続できる環境を構築します
(NOBORI社提供cubeを活用)

初期設定

NSER2.0へログインし、貴院の施設情報を登録

運用開始

NSER2.0をご利用ください(操作説明書ご用意しております)

Next Stage ER(FileMaker版)は、 救急医療の基幹病院で導入されています

25 病院の導入・稼働実績

NEXT Stage ER稼働/導入内定病院 (2020年5月現在)

- 稼働中
- 導入内定



救急医療の基幹病院への導入

茨城県 救急車台数No.1, 2, 3

(土浦協同、日立総合、筑波メディカル)

栃木県 救急車台数No.1, 2 (済生会宇都宮、自治医大)

群馬県 救急車台数No.1 (前橋赤十字 内定)

佐賀県 救急車台数No.1 (佐賀大学 内定)

北海道 救急車台数No.1 (札幌東 内定)

徳島県 救急車台数No.2 (徳島県立中央)

埼玉県 救急車台数No.2 (自治医大さいたま 内定)

大学病院本院 6箇所

(自治医大、東北大、筑波大、佐賀大、京都府立、産業医大)